ふる堂とぞ古俗飛騨大工を一人の名と心得し人有り昔ハ彼堂より諸堂へ大工数多出しとぞ

私ニ云昔ハ飛騨工とて一人の名人ニしとぞ今ハ大工の惣名なり工の根元飛騨なり

一左沢彼

山形の西ニして北へおし寄たり左沢ハ五里余ありあてらと訓ず属ハ最上川を挟としあちらの沢こちらの沢といひしより郷なる名とぞあてらハあちらの轉語ニして又寒河江川の左ハあちら之川の右ハこちら之小寺信正左右にあちらこちら此訓沢ニといへり九ま考といふ書按するに訓沢の有無ニかゝはりあらん地利によりて乃義訓とすへし続太平記当世勢の内ニ左沢とあるハ是也一万二千石の地ニして当時酒井石見守殿御領地なり市町為御繁栄の地なり小寺信正曰加藤肥後守忠廣寛永九年六月御勘気を蒙り酒井家へ御預